

生活情報としての災害情報

—情報類型の概念マトリックスと情報評価（I）—

京都文教短大[○]中村博幸 秋尾保子 武蔵野女大短大 矢内秋生 目白学園女子短大 池田勝枝

【目的】 本報告は、1995年1月の阪神淡路大震災以降に発信された災害情報を生活情報としてとらえ、情報の概念マトリックスを用いて分析することによって、災害情報を「広義の生活情報」の枠組みで検討し、いくつかの評価観点からの評価を目的とする。

【方法】 1月17日から約半年間、新聞8紙の関連記事約6万件に対し、概念マトリックスの各カテゴリー別出現頻度を調査した。分析に用いた概念マトリックスは、「情報の機能的類型」と「生活者の情報ニーズの類型」からなり、さらに「情報の機能的類型」軸は、情報の「必要時期」、「要求度」、「生活場面」、「生活行為」などからなり、「生活者の情報ニーズの類型」軸は、「状況把握」、「現状の改善」、「物的ニーズ」、「人的ニーズ」、「心的ニーズ」からなる。各マトリックス因子はKJ的にキーワードで代表させ、それらのキーワードによって自由語検索を行い、出現頻度を調査した。

情報評価の観点として、生活者ニーズと情報の機能との間で、①情報の需給バランス（質的および量的）、②情報の伝達効率（双方向）、③時系列的評価（情報の持続性）、④生活行為による評価、⑤地域社会（コミュニティ）的評価、などを想定した。

【結果】 消費者情報を中心とした生活情報から、「（広義の）生活情報」という枠組みの必要性。情報の出現頻度から、今般の災害情報の偏在と偏向の傾向分布。情報の評価手法確立の必要性。などが得られた。